

「柏崎の橋」

48 せきのはし 関野橋（中田）

関野橋は藤井一中田地内、市道柏崎10-9号線の一部として鯖石川に架かる橋であり、上藤井と中田を繋ぐ。橋付近の字名が「関野」であることから、この名がつけられたと推測される。



明治44年発行の国土地理院の地図では、同所周辺に鯖石川にかかる橋の記載はないが、『柏崎市史資料集 考古篇1』「関野遺跡」に昭和25年の鯖石川の河川改修工事の際、多量の古式土師器・須恵器が出土したのは地表下5mの橋脚部とあることから、この頃には関野橋の前身となる橋が架かっていたことがうかがえる。



木橋の様子（市史編さん室資料より）

地元の方によれば、昭和40年代後半、橋のもとには「てんぼうばし」と書かれていた。同じ中田地区にある天保橋との関係は不明であるが、その橋は橋脚がコンクリート製で、橋板や高欄部分が木製の木橋であった。また「上藤井の人々は川東にある中田の畑へ行くのに徒歩やリヤカーを引きながら橋を渡った。板と板の間に隙間があったため、流れる鯖石川が下にのぞき見え渡るのが怖かった。幅のある橋で、車も渡ることができた。」という。

昭和52年には、川東に柏崎土地開発公社による中田団地が造成され、橋の周辺地域が徐々に活気づいていき、橋も架け替えられることになった。昭和55年2月に竣工した朱色の美しい新橋は「関野橋」と名付けられた。

北鯖石地区は古くから鯖石川の氾濫等の水害に悩まされてきた。平成7年の7.11水害では鯖石川が警戒水域を越え、暮らしの中で不可欠な天保橋、関野橋、稔橋が交通止めになったことは地区民の記憶に残っている。



現在の関野橋

関野橋は主要道路や長岡方面へつながる重要な橋となっている。これからも北鯖石地区の発展を見守っていくであろう。

●参考にした本

『土と水と光』（224キタ）北鯖石郷土誌編集委員会編

『土と水と光 続編』（224キタ）

北鯖石コミュニティ振興協議会編

『柏崎市史資料集 考古篇1・2』柏崎市史編さん委員会編

『柏崎市史 下巻』（224 柏シヘ）市史編さん委員会編

『越後タイムス』